一般質問

11月29日、12月2日、3日の本会議で、23人の議員が、市政全般について一般質問を行いました。要旨は次のとおりです。

子どもたちに郷土愛を醸成し持続可能なまちづくりを

自由民主クラブ　伊東　光則　議員

議員　児童・生徒が三鷹市の歴史や文化、特色ある行政、コミュニティのあり方、地域活動等について学ぶことは郷土愛を育む点から重要だと考える。どのような教育をしているのか伺う。

教育長　三鷹市立学校では特色ある教育活動の一つとして、小・中一貫教育カリキュラム地域学習（三鷹学習）を、9年間を通して計画的・系統的に指導している。

議員　持続可能なまちづくりにおいて、現在の子どもたちに郷土愛を育み、その子どもたちが将来も三鷹に住み続け、次世代の子どもたちに郷土愛を与える大人になってもらうことが重要だと考える。所見を伺う。

教育長　コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育により、多くの地域で保護者が学校運営に積極的に関わる良さを生かして、子どもたちが20年先、30年先に自らがその担い手になり地域に貢献する市民となっていけるような、持続可能なまちづくりに向けた教育を推進していきたい。

議員　子どもたちに三鷹のことを知ってもらうためには、学校の教職員などが本市の歴史等を理解する必要がある。取り組みを伺う。

教育長　教職員が社会科の副読本を編集する際に、市の歴史等の情報を集めながら教材に反映するなど理解を深める活動をしている。

宮崎駿氏、ジブリ美術館と連携し魅力的なまちづくりを

自由民主クラブ　土屋　健一　議員

議員　市立アニメーション美術館（三鷹の森ジブリ美術館）の館主で名誉市民である宮崎駿氏が映画制作からの引退を宣言し、残念な一方で、今後、宮崎氏が同美術館の展示や企画に専念できることなどが期待される。市と宮崎氏の更なる関わりについて所見を伺う。

市長　宮崎氏が市立アニメーション美術館で創作活動に一層尽力し、美術館で普通に会えるような名誉市民であってほしいと考える。

議員　宮崎氏が描いたキャラクターPokiを、今ブームの「ゆるキャラ」として、市のPR等に活用することについて所見を伺う。

市長　Pokiをゆるキャラとは位置付けないが、市のキャラクターとして今後もまちづくりに活用する。市としてゆるキャラ作りに取り組む予定はないが、市民等が主体となった動きがあれば積極的に応援する。

議員　スタジオジブリがデザインしたみたかシティバスの台数を増やせないか。

都市整備部長　デザイン使用許諾契約に契約台数が定められており、困難だ。

議員　バスの車体にジブリキャラクターのラッピングをすることはできるか。

第一副市長　キャラクターをリアルなまちに露出したくないとのジブリ側の意向があり困難だが、引き続きPRを考えて交渉したい。

農業への理解を醸成し市内の農業・農地を守れ

自由民主クラブ　加藤　浩司　議員

議員　都市農業は、農産物等の供給、防災空間の確保、農業体験の場など多様な役割を担っているが、農地保全の必要性を意識している市民は少ないと感じる。更なる農業への理解の醸成が必要だ。所見を伺う。

市長　農業者と実際に交流しながら都市農業の果たす役割や現状を知ってもらうことが重要と考えている。

議員　高齢者人口の増大で相続等による農地売却の増加が見込まれる。住宅と農地が共生するまちづくりについて所見を伺う。

市長　相続が発生した場合に、特別な保全策を講じて農地として残すことや農業が継続できるような工夫を現在検討している。

議員　農業体験農園は、利用者が農業者から指導を受けて連続した農作業体験ができ、農業者にとっては農作業の省力化と所得の安定化が図られる新たな農業のスタイルだ。農業体験農園の取り組みを今年度中に実行に移してほしい。

市長　開園に向けて、ニーズや具体的な支援策についてアンケート調査の実施などを検討している。

議員　農業体験農園についての理解を深めるため、職員は他の地域の取り組みを視察するべきだ。

生活環境部調整担当部長　色々な地域に行き、研さんを深めたい。

災害時に向けて自衛隊との連携・協力の更なる強化を

自由民主クラブ　渥美　典尚　議員

議員　自衛隊は、災害時に救助・捜索活動や救援・生活支援など多大な貢献をしている。本市では、平成24年度の総合防災訓練において初めて自衛隊の参加が実現した。経緯を伺う。

市長　メーン会場の地域住民から強い要望が寄せられたことと東日本大震災等での自衛隊の活動を踏まえ、市として参加を要請した。

議員　災害時の自衛隊派遣は、地理地形等を把握している地域での救援活動が望ましい。担当部隊が本市の地理等の特徴を熟知できるように市が行っている具体的な支援策を伺う。

市長　総合防災訓練実施の際に、担当部隊への市内の道路状況等の情報提供や事前の現地確認への同行などの支援を行っている。

議員　自衛隊のPRについては今まで以上の支援が必要だ。今後の方策を伺う。

市長　自衛隊との共同による自衛官募集相談員の委嘱式や入隊予定者の激励会を行っている。今後も可能な限り協力していきたい。

議員　自衛隊に対するバランスの良い認識を持つべきであり、小中学生時からの正しい教育が必要だ。

教育長　中学校では自衛隊の発足や国連のPKOへの派遣を、小学校では国の防衛や国際社会の平和と安全維持のために果たしている役割について学んでいる。

高齢者が地域で安心して住み続けられる施策の充実を

自由民主クラブ　後藤　貴光　議員

議員　昨年10月、福岡市の医院の火災で高齢の入院患者等10人が死亡した。本市の高齢者関連施設の管理の現状と取り組みを伺う。

市長　介護保険適用の入所施設は管理を徹底している。昨年は他市の事故を受け、消防署と合同でグループホームを緊急点検し、事業所等に再点検を促した。

議員　沼田市では、警察、関係機関、FM放送局、メール登録市民等との連携で徘徊高齢者の発見に実績をあげている。同様の取り組みの予定等を伺う。

健康福祉部調整担当部長　地域ケアネットワーク、ほのぼのネット活動、見守りネットワーク等、市内の多層的な見守りの仕組みの強化や、認知症サポーター養成講座、啓発事業等の推進をしつつ今後研究する。

議員　振り込め詐欺防止のため警視庁が高齢者世帯に無料で貸し出している自動通話録音機の普及が進んでいない。申請を仲介するなど工夫が必要ではないか。

生活環境部調整担当部長　きめ細かい対応に努める。

議員　新潟市で成果をあげている空き家を活用した高齢者の居場所づくりを、本市でも検討できないか。

市長　様々な既存の居場所づくりサロンの取り組みを検証し、庁内の空き家等の適正管理プロジェクト・チームと連携し検討する。

「認知症にやさしいまち三鷹」シンポジウム

信頼される生活保護制度の運用に向け貧困の連鎖を断て

自由民主クラブ　宍戸　治重　議員

議員　生活保護費など社会保障関係費の増大や市税収入の減少等で、本市の財政は大変厳しい状況が続いている。三鷹市の生活保護受給者数の将来予測を伺う。

市長　高齢化の進展等により受給者増は避けられないが、就労支援の拡充や、他施策の活用などにより伸びを鈍化できると考えている。

議員　不正受給などの影響で制度の信頼性が低下している。①適正運用に向けた取り組みを伺う②市民からの通報システムが必要だ。

健康福祉部長　①必要に応じた関係先調査等を行い、不正受給の防止に一層努めたい②今のところ市民の声で運用を変更しなければならないような事例はない。

議員　生活保護費の抑制は適正運用と就労支援だけでは解決しない。生活保護家庭の「貧困の連鎖」の解消に向けた取り組みが課題だ。

市長　生活困窮者自立支援法案では「学習支援事業」が明記されている。今後、生活保護世帯だけでなく生活困窮世帯全体への学習支援の検討が必要と考えている。

議員　貧困の連鎖を断ち切るためには、何よりも基礎学力を身につけることが重要だと考える。所見を伺う。

教育長　それぞれの学年で何を習得し、何に活用できるかが重要になる。夢と希望を持って学習に立ち向かえる教育をしていきたい。

新たな教育改革の潮流を汲み地域に開かれた学校づくりを

自由民主クラブ　吉野　和之　議員

議員　人格の完成を目指し確かな学力と規範意識、愛国心を身につけることが教育の基本だ。教育基本法の改正による新たな教育の潮流について見解を伺う。

教育長　コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の基本的な考え方と、まさに合致するものであると受け止めている。

議員　豊後高田市では土曜授業の取り組みに地域住民と協力して寺子屋講座を開くなどしている。市でも土曜授業の活用方法について積極的な検討が必要だ。

教育長　今後も地域住民の

（4面へ続く）